

原子力災害に備えて

「避難計画」を策定中

本市初の避難訓練も実施

もしもの原子力災害に備えて、市は地域防災計画（原子力災害対策編）を今年6月に策定しました。また原子力災害避難計画を今年度中に策定する予定で、この避難計画に生かそうと10月24日、本市初の原子力災害避難訓練を実施しました。

町から約40〜60キロに位置し、万が一、発電所で事故が発生した場合には放射性物質が飛来する恐れがあります。左図。

訓練は、発電所から約40キロに位置する西区の一部に1週間以内に避難を行うことへの指示が出されたとの想定で実施。住民がバスで発電所から約50

訓練参加者の声を避難計画にも反映

本市は玄海原子力発電所（佐賀県松浦郡玄海

校（城南区東油山四丁目）などへ避難しまし



スクリーニング訓練

た。

避難の途中ではスクリーニング（放射線量検査）を受け、訓練の最後

には参加した約100人の住民による意見交換も行いました。また訓練に先駆け、7〜9月の期間に地域で原子力防災について学ぶ対話型研修も実施。同避難訓練や研修の参加者からは「正しい知識の下、対応する必要がある」、「地域での継続的な取り組み

原子力災害と放射性物質・放射線

「原子力災害」とは原子力施設から放射性物質が漏れ、周辺に被害が生じることをいいます。また放射性物質とは放射線を出す物質のことで、放射線を出す能力を放射能と呼んでいます。

放射線は目に見えず、被害や人への影響を感じることができないため、あらかじめ放射線などに関する基本的な知識を身に付けておくことが大切です。

【問い合わせ先】

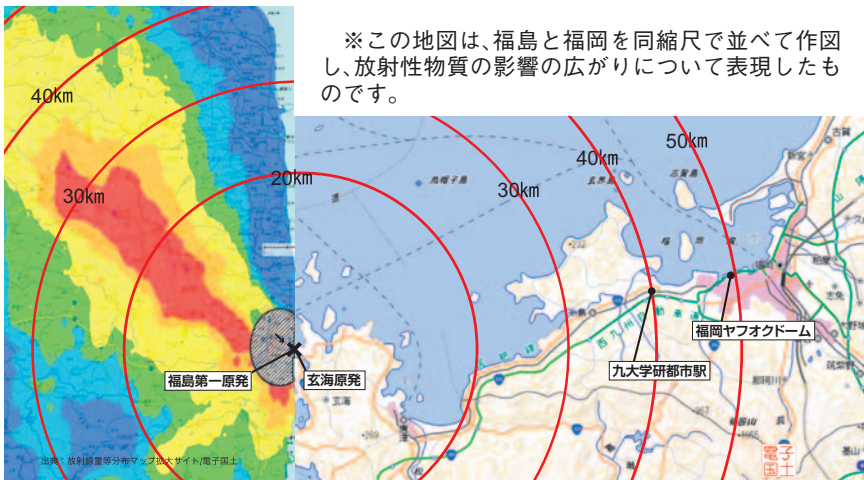
防災危機管理課 ☎71

1・4056 ☎733・

5861

福島第一原発事故の状況および玄海原発と福岡市の位置関係

※この地図は、福島と福岡を同縮尺で並べて作図し、放射性物質の影響の広がりについて表現したものです。



福岡市は、玄海原子力発電所からおよそ40〜60キロに位置しています。万が一、事故が発生し、放射性物質が放出されるような事態になった場合、放射性プルーム（放射性物質を含んだ空気の一団）による被ばくを避ける必要があります。福島第一原子力発電所事故では、およそ30〜50キロに位置する飯館村でも避難生活を余儀なくされています。



避難訓練後に意見を語り合う参加者と市長